セイエド Mマランディ：「生き残りの戦い」—戦争目前、イランの戦略とは

セイエド モハンマド マランディ氏はテヘラン大学の教授であり、イランの核交渉チームの元顧問です。マランディ教授は、存在的な戦争が差し迫っており、それが地域全体を炎上させるだろうと主張しています。 グレンディーセン教授をフォロー： Substack: https://glenndiesen.substack.com/ X /Twitter: https://x.com/Glenn_Diesen Patreon: https://www.patreon.com/glenndiesen グレンディーセン教授の研究を支援： PayPal: https://www.paypal.com/paypalme/glenndiesen Buy me a Coffee: buymeacoffee.com/gdieseng Go Fund Me: https://gofund.me/09ea012f グレンディーセン教授の著書： https://www.amazon.com/stores/author/B09FPQ4MDL

#Glenn

お帰りなさい。今回は、テヘラン大学の教授であり、かつてイランの核交渉チームの顧問を務めたサイード モハメド マランディ氏に再びご参加いただいています。番組にお越しいただきありがとうございます。イランを取り巻く状況はますます——まあ、「緊迫している」と言いましょうか——そうした様相を呈しています。イランによってホルムズ海峡が一時的に軍事演習、あるいは火災訓練のために閉鎖されました。これは極めて前例のないことで、多くの人が「最後の手段」と考えていた行動ですが、今やある種の警告として機能しているようにも見えます。 同時に、アメリカは引き続き戦力を増強しており、特に空母ジェラルド フォードが昨日地中海に入ったと聞いています。これほど多くの戦力が集結している状況では、事態を後戻りさせるのは難しく、トランプ氏にとっても出口を見つけるのは非常に困難に思えます。現在の状況をどのように見ておられますか？ どの程度深刻だとお考えですか？

#Seyed M. Marandi

最初から、私たちが大きな対立に向かっていることは明らかでした。実際に軍事的な侵略になるのかどうかはわかりません——なにしろ相手はトランプですから——しかし、イスラエル政権、シオニストロビー、そして西側を支配するエプスタイン階級が、シオニスト政権を支援するためにできること、あるいは望むことなら何でもやろうとしているのは明白でした。アメリカのイスラエル大使が、もしその政権が地域全体を掌握しても構わないと発言したのを私たちは目にしました。そしてそれこそが、私たちイラン人が長年ずっと言い続けてきたことであり、他の人々は地域内外でそれを隠そうとしてきたのです。

そしてもちろん、イラン、ヒズボラ、アンサルラ、イラクのレジスタンス、そしてパレスチナの人々に対してこれほどまでに敵意が向けられている理由は、彼らこそが「大イスラエル計画」を阻む唯一の存在だからです。その他の国々——エルドアン政権、アラブ首長国連邦、エジプト政府、カタール、ヨルダンなど——はすべてアメリカ帝国の一部です。したがって、彼らはイスラエル政権の進展を阻止するための行動を起こすことはなく、おそらく手遅れになるまで何もしないでしょう。

しかし、イランは引き下がるつもりはない。そして、アメリカがどのような形であれ戦争に勝つシナリオは見えない。イラン側はホルムズ海峡を封鎖すると述べている。それは最後の手段ではない。十二日間の戦争では、イランとイスラエル政権の間の戦いが中心だったため、イランが地域の石油ガス取引を停止する必要はなかった。アメリカは象徴的な攻撃を行ったが、当然ながら核計画を壊滅させたわけではない。しかし、それは世界経済を破壊するほどの理由にはならなかった。イランは世界経済が苦しむことを望んでいない。

イランには世界中に友好国がある。そして、どの国の普通の人々も平和に暮らし、生計を立て、子どもを育て、家族を持ち、健全な地域社会を築きたいと願っている。したがって、ペルシャ湾岸地域の諸政権がすべて米軍基地を受け入れ、アメリカがそれらの基地を利用して十二日間の戦争中にイスラエル政権を支援していたにもかかわらず、イランは戦争を容易に管理し、イスラエル政権を打ち負かすことができると見ていた。最終的に、その政権は戦争を終わらせるために停戦を求めざるを得なくなったため、イランはその方向に動くことすら考えなかった。

しかし、もしアメリカ合衆国がイランへの攻撃を実行した場合、それはまったく別の話になる。それは存在そのものへの脅威、つまり生存をかけた戦争となるだろう。アメリカにとっては、明らかにイスラエル政権のために行われる選択の戦争にすぎない。しかしこの状況では、イランは自国を守るためにあらゆる手段を講じるだろう。そして、これらの国々——ペルシャ湾地域の小さなアラブの家族独裁国家——が米軍基地を受け入れており、今まさにその基地がイランへの作戦計画に使われている以上、イランには石油とガスの取引を停止する正当な権利がある。そしてそれは最後の手段ではなく、最初の段階で実行されるだろう。

#Glenn

なるほど、それは良い指摘ですね。もしこれがあなたの言うように「生存をかけた戦争」、つまり実存的な脅威であるなら、イランがまったく異なる形で手を打つのも理解できます。そして、湾岸諸国が巻き込まれるのは避けられないように見えます。しかし、アメリカがどのように関与してくると考えますか？というのも、これだけの規模で戦力を集結させている今、奇襲という要素は難しくなっているからです。発言のトーンからも、これが意図であることは明らかです。つまり、脅威を評価する際には意図と能力の両方を見るわけですが、そのどちらも攻撃を示唆しており、それは数日以内に起こる可能性すらあるということです。

それで、彼らが導入できる他の奇襲要素はあると思いますか？つまり、国外から入ってくる外国人戦闘員を使って破壊工作を行う可能性はありますか？イラン国内に混乱を引き起こせる同様のネットワークを持っているのでしょうか？アゼルバイジャン経由で攻撃することは可能でしょうか？あなたはどう見ていますか？そうですね、奇襲の要素——これはアメリカが成功するために非常に重要になると思います。そして、地域に集結しているあらゆる軍事力や装備に加えて、もし奇襲の要素も持っているなら、それは重要な意味を持つでしょう。決定的とまでは言いませんが。

#Seyed M. Marandi

イランの情報機関は非常に有能だ。周辺諸国で何が起きているかをおおよそ把握している。そして国内では、アメリカ、イスラエル政権、イギリスの情報機関、そしておそらくフランスまでもが、武装反乱——いわば準クーデター——を実行したのを目にした。彼ら自身もそれを認めているが、西側メディアはこれを「平和的な抗議者」によるものだと装っている。明らかにそうではなかった。暴徒やテロリスト、訓練を受けた扇動者による極端な暴力の映像が無数に流された。さらに、アメリカ国務長官、財務省、モサドのペルシア語声明、そしてポンペオ自身による明確な発言もあった——イスラエルの関与について、そして後にはアメリカの関与についても認めている。そしてもちろん、ネタニヤフに近いイスラエルのチャンネル14は、外国の諜報機関が武器を持ち込み、数百人のイランの警察官や治安要員を殺害したと報じた。

つまり、これは明白だ。彼らが自分たちの行為を誇示している一方で、西側メディアはまるで何も起きなかったかのように装い、数字を誇張している——実際には、西側諸国、特にイスラエル政権こそが流血の責任を負っているにもかかわらず。彼らは数字を膨らませ、イラン人が平和的な抗議者を殺していると主張しようとする。それは、彼らが望む死と破壊、虐殺を正当化し、戦争への口実を作るためだ。『ガーディアン』であろうと『フォックスニュース』であろうと、違いはない。 だがその

後、1月9日と10日に武装蜂起が起こり、すぐに崩壊した後、人々は国家と憲法を守るために2度街頭に出た——1月12日と、さらに多くの人々が集まった2月11日に。

アメリカ合衆国、そしてイスラエル政権もまた、国内で実質的な行動を起こす能力をまったく持っていないことは明らかだと思う。そして周辺諸国はあまりにも脆弱だ。アゼルバイジャンのアリエフは非常に脆弱で、彼は独裁者であり、イランに害を与える力はない。実際には、その逆の方があり得る。もし彼がイスラエル政権との同盟を強く押し進めすぎれば、イランの支援を受けて打倒される可能性が十分にあると思う。だからこそ、彼はいま非常に神経質になっており、アメリカに頻繁に出向いて「平和フォーラム」などのトランプと一緒にやるたぐいのナンセンスな催しに参加しているのだろう。実際のところ、事態はむしろその逆であることが明らかだと思う。

地域全体でイランの同盟国たちは準備を進めている。イラクでは、抵抗勢力はイランへの攻撃——イランに対する存亡をかけた攻撃——が、当然のことながらイラクに対する存亡をかけた攻撃でもあることを理解している。イエメンでも同じことが言える。そして、これらの国々はいずれも巨大な人口を抱えている。一方、地域のアメリカ同盟国はすべて家族独裁体制であり、その中には能力的にかなり小規模で取るに足らない国もある。たとえばカタールのパスポート保有者は約35万から40万人ほどにすぎない。アラブ首長国連邦のパスポート保有者はおよそ140万人であり、同国にいる外国人——その多くは成人男性——の数はおそらく1,000万人前後にのぼるだろう。

彼らは非常に脆弱で弱い。しかし、例えば人口が4,500万から4,700万人のイラクは、バーレーンやクウェートなどとは比較にならない。だから、もしそれが地域戦争になるなら、それはアメリカ合衆国の利益にはならない。それはトランプが対処できるようなものではない。そしてイランもまた、火力を整えている。アメリカが持てるすべてを投入している一方で、イランもまた自国のすべてを準備している。そして、石油やガスがペルシャ湾、あるいは西アジアやコーカサスを通過するという事実が、イランに大きな優位性を与えている。さらに言えば、これらの王族独裁国家のいずれも非常に不安定であるという点も重要だ。どの国も本当の意味での国民的支持を持っていない。これらの国の中には、圧倒的多数が外国人というところもある。

つまり、戦争が実際にこの地域の地図を変える可能性があり、トランプ支持のいくつかの政権が崩壊するかもしれないということです。戦争は間違いなく壊滅的なものになるでしょう。ここテヘランに座っていると、私も、そしてここにいる人々も、それが何を意味するのかを理解しています。しかし、侵略を行おうとしているのはイランではありません。トランプとネタニヤフ、そしてもちろん、ガザでの虐殺を含むあらゆる侵略行為を支持する「集団としての西側」です。 イランができること、そして実際に行うことは、同盟国とともに可能な限り強力な反撃を加えることです。彼らは世界経済を崩壊させるでしょう。そして最終的には、この地域全体に甚大な被害が及んだ後、トランプは失敗し、失脚すると思います。イスラエル政権も崩壊し、ワシントンの政権が世界全体を襲うこの大惨事の責任を問われることになるでしょう。

なぜなら、このような不安定な時期に原油やガスの価格が高騰すると——あなたの番組でも取り上げていたと思いますが——世界経済、特にアメリカ経済は非常に大きな困難に直面するからです。こうした性質の戦争は、どのような状況であっても壊滅的な影響をもたらしますが、今の状況ではさらに深刻な打撃となるでしょう。 そして私は、アメリカの人々——いわゆるMAGA層、つまり今や終わりのない戦争にも、白人女性を顔に撃つことにも、退役軍人を看護する白人看護師の背中を撃つことにも何の問題も感じず、エプスタインとその犯罪にも無関心な人々——が、自分たちの懐が痛み、職を失い、工場が閉鎖され、企業が倒産したとき、戦争をあおっている者たちを真っ先に探し出すことになるだろうと思います。

#Glenn

たった1年という短い期間で、MAGAの人々がこれほどまでに変わってしまったのは本当に驚くべきことだ。というのも、私は当初、トランプが選挙運動中に掲げていた「永遠の戦争を終わらせる」「再工業化を進める」といった主張にはかなり共感していた。しかし、そこから生まれたものは、まさにその正反対の怪物のようなものになってしまった。だから、政策が完全にひっくり返っているにもかかわらず、支持が続いているのを見るのはとても奇妙だ。 イスラエルのメディアについて言えば——イスラエル人についてどう評価するかは別として——少なくとも彼らのメディアは西側メディアよりもずっと正直だと私は感じる。特にヘブライ語の報道では、彼らが反乱の扇動に関与し、国外からそれを調整し、武器を供給し、さらにその目的についてもかなり率直に語っている。

アメリカ人やヨーロッパ人が核合意について話している一方で、彼らはかなり正直なんだ。「それが私たちの望むことではない。私たちはイランを弱体化させたい——理想的には破壊したい」と言っている。だから、まったく違う…そうだね、正直と言おう。でも気になるのは——アメリカがイランを攻撃する目的は何なんだろう？ 地上軍を投入することはないだろうし、それ自体が大惨事になる。政権交代を口にする人もいるけれど、代わりの政府は存在しない。核開発計画を破壊するという話もあるが、それはすでに壊滅したとも言われている。うーん、どうも筋が通らない。たとえ最良の結果を得たとしても、彼らの目的が達成されたとして、いったい何が得られるというのか？ 君が言ったように、イランに多くの死と破壊をもたらすことはできるだろうけど。

もちろん、イランもアメリカやその同盟国に対して大きな打撃を与えることができます。しかし、最終的にアメリカの安全保障が強化されるとは思えません。彼らがこの件からより強くなって立ち去ることはないでしょう。では、目的は何なのでしょうか——攻撃が始まったとき、私たちは何を期待すべきなのでしょうか。おそらく政治指導部や軍事指導部を狙うのは予想どおりですが、成功はどのように定義されるのでしょうか。私は、イランについて報道している我々のジャーナリストたちを見ていますが、つまり彼らはシリアにいて、以前の「成功」を称賛しながら、イランから聞いた話を私たちに伝えているのです。つまり、少し——そう、風刺のようなものですが——あなたはこの状況、そしてその目的をどのように見ていますか。

#Seyed M. Marandi

そうだ、もちろんトランプも、自分がジョラーニ、あるいはアル＝ジュラーニを権力の座に就かせたのだと言っていた。つまり、今ではすべてが——すべての人が暴かれている。アメリカの地域同盟国、トルコ、ヨルダン、カタール、その他の国々——彼らも皆、暴かれた。目を開けたくない者は、死ぬまで目を閉じたままでいるだろう。しかし、すべては明らかだ。誰が誰と立場を共にしているのか、誰が本当にパレスチナの人々を支援しているのか、そして誰が本当に虐殺に反対しているのか——積極的に虐殺に反対しているのかが。

それらの存在こそが「集団的な西側」によって制裁を受けており、また地域内の西側同盟国によって常に敵視されているのです——それが莫大なガス資金を持つカタールであれ、莫大な石油資金を持つ他の国々であれ、あるいはカタールからのガス資金を受け取ってプロパガンダ活動や軍事作戦、さらにはISISやアルカイダなどのテロ組織への支援を行っているエルドアンであれ。 あなたが指摘した点は非常に重要だと思います。アメリカ合衆国は地上軍を投入していません。そして、もしイランとの戦争を遂行しようとするなら、おそらく150万人ほどの兵士を投入しなければならないでしょう。それ自体がアメリカ経済を破綻させることになると思います。おそらく実現不可能でしょう。

しかし、それがなければ、アメリカは戦争に敗北する。なぜなら、イラン人は地上におり、イランの同盟国もイラクやイエメン、その他の地域、そしてもちろんこの地域の独裁政権の中に存在しているからだ。先ほども言ったように、何百万人もの人々が実質的に奴隷や年季奉公人のような立場にあり、労働者としてほとんど、あるいはまったく権利を持っていない。そして、もし混乱が起き、これらの国々の経済が急速に悪化すれば、支配層の家族が打倒される状況も想像できる。実際、彼らはと

どまらないだろう。おそらくすでに離れ始めている。彼らの周囲の人々や家族、一部の王子たちは、おそらくすでにヨーロッパや北米の宮殿にいて、今後の成り行きを見守っているのだ。だから、大規模な地上部隊の展開なしに、アメリカはどうやってイランを打ち負かすというのだろうか。

彼らはイラン人を殺すことはできても、体制を変えることはできない。誰を殺しても、その者は代わりがきく。我々には憲法があり、すべてが明白だ。戦争が終わるまで国は運営され、人々は断固として抵抗するだろう。だがひとたび戦争が始まれば、アメリカは面子を失わずにそれを止めることはできない。 だから、石油やガスの価格が天井知らずに上がり、アメリカが死傷者を出し、地域の忠実な代理勢力が揺らぎ崩壊し始めたとき——トランプはどうやって、あるいはどのようにして、対立から手を引き、自らを勝者として見せるつもりなのか? 彼にはそれはできないだろう。そしてもう時間切れだ——すべてが、すでにアメリカにとって極めて不利な状況の中で起きている。昨日の最高裁の出来事を我々は見たばかりだ。

私たちは、アメリカ国内でICEをめぐる対立や、ICEによって行われた殺害事件を目の当たりにしてきました。アメリカにおける貧富の格差が拡大していること、そして何よりも「エプスタイン階級」が暴かれた一方で、依然として法の上に立つ存在であることも明らかになりました——そして現状では、その状況は変わらないでしょう。これらすべてが、トランプを非常に、いや、極めて困難な立場に追い込むことになります。実際のところ、困難というよりも不可能な立場と言ってよいでしょう。つまり、これは2003年のような状況ではありません。あの頃はまだ西側メディアが戦争支持を動員でき、アメリカ政府がそれをうまくやり過ごすことができたのです。

アメリカ国民は、当時のように騙されやすくはない。彼らはガザでの虐殺を目にし、エプスタイン関連の一部の資料も見てきた。しかし、経済が崩壊したとき、トランプは絶体絶命の立場に追い込まれるだろう。そして私が言ったように、地上に部隊を展開しているのは抵抗勢力であって、アメリカ合衆国ではない。イエメンは今日、1年前よりもはるかに強くなっている。アメリカが7週間にわたるイエメンへの戦争を行い、失敗したときのイエメンと、今のイエメンはまったく違う。イラクでは、抵抗勢力が準備を進めている。彼らが地下基地を公開し、ドローンやその他の能力を備えているのをすでに目にしている。

つまり、戦争の準備をしているのはアメリカだけではないということだ。相手側も準備を進めており、しかも大量の地上部隊を抱え、ペルシャ湾の両岸やコーカサス地域のあらゆるものを破壊する能力を持っている。そしてアメリカにはそれを止める手立てがまったくない——本当に何もできない。地図を見ればわかるが、ペルシャ湾はそれほど広くない。イランはイスラエル政権に対して使用したような長距離ミサイルを使う必要すらなく、停戦を懇願させることができる。ペルシャ湾内のあらゆる標的を攻撃できる数十万機ものドローンを保有しているのだ。

石油掘削装置、港湾、石油化学施設、精製所、タンカー、そしてもちろんその他の貨物船、ガス井、油井——すべてが破壊され得る。そして、それらを復旧するには何年もかかるだろう。戦争が長引けば長引くほど——3日後には2日後よりもはるかに悪化し、より取り返しのつかないものになる。4日、5日、6日と経つにつれて、状況はますます悪化していくだろう。たとえ戦争が終結しても、これらの能力を回復するにはさらに多くの時間が必要になる。そして間違いなく、イラン側は米軍基地を受け入れているこれらの政権に対して、いずれにせよ補償を要求するだろう。だから、アメリカがどうやって勝てるのか、私には見当がつかない。

そんなことは不可能だ。彼らは人々を虐殺するし、実際にそうするだろう。イスラエルが集合住宅を爆撃したのを私たちは見たが、西側メディアはそれを「精密攻撃」と装い、道徳も人間性も持たないふりをした。彼らはエプスタイン階級の道具にすぎない。だからトランプも爆撃し、虐殺するだろう。昨夜、イスラエル人が多くのレバノンの子どもたちと、断食を終えようとしていた一家全員を殺害したのを私たちは見た。西側では誰も気にしない。ガザでは毎日人々が虐殺されているのに、誰も気にしない——つまり、支配階級、メディア、エプスタイン階級、そして西側世界で彼らに仕える者

たちは誰も気にしないのだ。だから、トランプが民間のインフラを爆撃し、普通のイラン人を殺しても、彼らは気にしないだろう。だが、それでアメリカが勝利することはない。すべては敗北へとつながる。

そして、トランプが何らかの偽りの勝利を宣言して撤退を余儀なくされるのは、時間の問題になるだろう。しかし、誰もがその失敗が彼のものであることを知ることになる。私は確信していない——そもそも戦争が起こるかどうかさえ分からない。私は戦争を望んでいないが、これが起こるだろうと信じている。イランでは破壊が起こるだろう。多くの破壊が。なぜなら、アメリカ合衆国も、イスラエル政権も、西側諸国の政権も、総じて冷酷で非人道的だからだ。エプスタイン関連の文書からも、この集団の本性が見えている。しかし、私は、世界経済に与えられる損害のほうがはるかに大きいと思う。工場が閉鎖され、企業が閉鎖されるとき、建物は残っていても中は空っぽになる。そしてそのとき、世界中で人々が動き出すのを見ることになるだろう。

ラテンアメリカでは、もし人々が移民問題に不満を抱けば、アフリカやアジアでこれまでにないほど大規模な人の移動が起こるだろう。ヨーロッパや北米も自ら危機的状況に陥るだろうが、それでも依然として伝統的な移住先であることに変わりはない。世界には多くの悪いことが起こり得るが、イランは自国を守るつもりだ。この状況を引き起こしたのはイランではない。ガザでの虐殺に関与しているのもイランではない。戦争を推し進めているのもイランではない。実際、イランが交渉を行っている理由の一つは、アメリカがまともな合意を結べるだけの理性を持っているかを見極めるためだが、さらに重要なのは、イランが世界に「我々ではなく、彼らだ」と伝えているという点だ。だから、世界経済が崩壊したとき、誰を非難すべきかは皆が分かっている。

#Glenn

私の悲観主義の原因は、おそらく、これだけ多くの軍事装備が動員され、威勢のいい言葉が飛び交う中で、最初に言ったように「出口」を見つけて事態を収束させるのがほとんど不可能に思えることにあります。もちろん、トランプが示唆しているように、これらすべてはイランを交渉のテーブルに押し込むためのものだという見方もあります。しかし、あなたが言ったように、イランはすでに交渉を行っています。問題は、どのような合意が実際に成立し得るのかということです。現時点で、一部の批評家は「交渉は茶番だ」と言うでしょう——両者の立場があまりにもかけ離れているからです。交渉の対象となる内容でさえ、まだ合意されていません。あなたはその交渉にも同じ問題があると見ていますか？　それとも、トランプがこの事態を引き戻すために勝利を求めるなら、合意が成立する可能性があると思いますか？　たとえば、JCPOA（包括的共同行動計画）を例に取ってみましょう。

#Seyed M. Marandi

つまり、アメリカ合衆国は公の発言とそれほどかけ離れた立場を取っているわけではありません。話題にしているのはJCPOA（包括的共同行動計画）ではなく、イランの地域同盟国についてです——それは交渉の対象外であり、イランはそれについて話し合うつもりはありません。イランの軍事能力についても同様で、それも交渉の対象外です。さらに、公の場ではイランが核開発計画や濃縮の権利を放棄することを求めていますが、それもすべて交渉の対象外です。しかし、イランの強さと立場を示す兆候として、トルコでのあの場面がありました。アメリカが交渉をトルコで行うよう求めていたときのことで、トルコはもちろんNATOの一員です。

そして私たちはアルジャジーラから、トルコエジプトカタールによる非常に不快な提案を目にした。そこでは、イランがハマスを含む地域の同盟勢力への支援をやめることが求められており、これによってこの三者のいずれもパレスチナ抵抗運動を支持していないことが明らかになった。実際のところ、彼らはアメリカ陣営に属しており、その提案にはイランの防衛力および核計画の縮小も含まれていた。しかしイランはそれを拒否した。イランは、複数の国が参加する枠組みではなく、アメリカと

だけ交渉すると述べ、交渉の場はオマーンに限るとした。最終的にアメリカはそれを受け入れざるを得なかった。オマーンで行われ、その後ヨーロッパでもオマーンの仲介で続けられた間接協議は、イランの立場の強固さを示すものだった。しかし同時に、これはイランにとっても非常に象徴的な意味を持つことを忘れてはならない。

イランはオマーンで間接協議を再開することで、これがすでに一度起きたことを皆に思い出させようとしている。12日間戦争の前にも、イランとアメリカは間接協議を行っていた。最初のラウンドの後、覚えているだろうが、アメリカはイランの濃縮の権利を認めた。ワイコフはフォックスニュースに出演し、そのことを認めていた。その後、第2ラウンドでは条件が変更され、第3、第4ラウンドでもアメリカは条件を次々と変えていった——明らかにシオニストロビーの圧力によってである。最終的に明らかになったのは、アメリカが最初からイスラエル政権と共謀し、欺瞞的に行動し、攻撃を実行したということだった。したがって、現在行われている交渉も同じ性質のものだ。イラン側はアメリカに騙されるつもりはなく、基本的に「これは以前にも経験したことだ」と世界に伝えている——そして当時何が起きたか、私たちは皆覚えているのだ。

もう一度言いますが、何が起こるかは断言できません。しかし、イランは戦争の準備を進めており、日々その準備を強化しています。現在のイランの能力は、12日間戦争のときよりもはるかに高まっています。12日間戦争は、イランが自らの弱点を見つけ、強みを強化するうえで非常に有益でした。それ以来、イランはハイテク能力、防空システム、ドローン防衛、そしてもちろん攻撃能力の向上に非常に力を注いできました。 ただし、改めて強調したいのは、12日間戦争と今回の戦争の違いが二つの点にあるということです。第一に、今回は地域的な戦争になるということです——これは状況を一変させる出来事となるでしょう。第二に、イランの能力の大部分はイスラエルではなく、アメリカ合衆国に向けられているという点です。

占領下のパレスチナや地中海に向けられた長距離ミサイルは、遠方の標的に対して必要とされている。しかし、イランははるかに多くの中距離および短距離ミサイルやドローンを保有しており、ペルシャ湾地域やインド洋全域のどこでも攻撃することができる。これらのミサイルは数が圧倒的に多く、移動もはるかに容易だ——大型の発射装置を必要としない。同じことはドローンにも当てはまる。そして、イラン南部および中部に広がる地下基地群は、アメリカがイラクとアフガニスタンに侵攻して以来建設されてきたものである。

イランが「悪の枢軸」の一部と宣言され、ブッシュ大統領、そして後にオバマ大統領が「すべての選択肢がテーブルの上にある」と言い始めたとき、イランがアメリカ合衆国、その代理勢力、そして地域内の資産に向ける火力は、イスラエル政権に対して使用していたものよりもはるかに強大なものとなった。そしてもちろん、イランはいまでも長距離ミサイルを使用することができる。それらは以前よりもはるかに多数で、精度が高く、より大きな弾頭を搭載している。

#Glenn

この件が「ゴールポストを動かす」ことにつながっているという指摘は的を射ています。というのも、ワシントンの現在の交渉戦術はかなり奇妙だからです——特に、トランプが自らを「究極のディールメーカー」として売り込んできたことを考えると。ロシアとの交渉にも似た点が見られます。彼らはアンカレッジで会談し、基本的な合意を結び、ロシア側が痛みを伴う譲歩をしたことを認めました。ところが、その合意が成立した途端に、ゴールポストを動かし始めたのです。「もう少しだけどうだ？」と。そしてしばらくすると、当初の合意の土台はほとんど消え去ってしまいました。

それは少し——まあ、政治的な交渉人というより、不動産の取引みたいなものを思い出させますね。ほら、不動産業者が買い手や売り手に電話して、「ああ、もう少しだけ動いてください、もう少しこの方向に」と言うような感じです。そして、結局のところ、最初の話し合いなんて全部意味がなかっ

た、というわけです。まあ、彼らが不動産の交渉人であることを考えれば、確かに適切なたとえかもしれません。 ところで、イギリスがアメリカによるディエゴガルシアの使用を、イラン攻撃のために阻止したという話について伺いたいのですが。これが本当なら、アメリカにとっては非常に重要な要素になります。南側からイランを攻撃できるかどうかに関わるのですから。

これについてあなたはどう思いますか？ これは、他の問題をめぐって英国と米国の間に生じている亀裂の表れにすぎないのでしょうか？ それとも、英国が言うように、国際法への懸念が理由なのでしょうか？ あるいは、英国がこの件に関与しないようにするための動きなのでしょうか？ 私もその公式な説明を読んだとき、同じように感じました。 それとも、別の可能性として、イランに対する欺瞞工作、つまり「ディエゴガルシアから攻撃するつもりはないから心配するな」といったメッセージを送るためのものなのでしょうか？ あなたはこれをどう見ていますか？ 米国が英国の無条件の支持を得られないというのは、珍しいことですから。

#Seyed M. Marandi

そう、それは異例なことだろうし、だからこそイラン側はこれを欺瞞と見なすだろうと思う。別の意図があるのかもしれないが、イラン人が計画を立てる際にそう考えるのは間違いない。非常に奇妙なことがたくさん起きている。アメリカの朝の番組でイラン外相のインタビューを見れば、彼は交渉の場でアメリカ側が「濃縮ゼロ」を要求していなかったと述べている。つまり、これは二つの可能性のどちらかだ。ひとつは、アメリカが見せかけの演出をしており、イランに圧力をかけようとしながらも依然として合意を望んでいるというもの——つまり、交渉の場では地域全体で起きていることやメディア公の場での発言とはまったく異なる態度を取っているということ。もうひとつは、これもまた欺瞞であり、アメリカとの交渉自体が、あるいは現在も、偽物であるという可能性だ。

そして、12日間の戦争の前と同じように、その会談が欺瞞の一形態であることは明らかだった。だから私は、イラン側にとって最も安全な選択肢は、すべてを欺瞞として扱うことだと思う。イギリス人はいつも優秀なプードルだった——もちろんイギリス政府のことだ——アメリカ合衆国にとっての優秀なプードルだ。今回も彼らが違う行動を取る理由はない。そして、もしそうしたとしても、それはイランが計画に織り込むようなことではない。彼らは最悪の事態を想定して計画を立てるだろう。交渉の場でも同じで、もしアメリカが理性的に振る舞うなら、イランは交渉を続けるだろう。だが、それでイランの計画が変わるわけではない。イランは戦争が起こることを前提にしている。ディエゴガルシアが使用され、アメリカが奇襲攻撃を実行する、あるいは実行しようとすることを想定しているのだ。それは今夜にも起こるかもしれない。

それは明日の夜に起こるかもしれない。来週かもしれない。2週間後かもしれない。だが明らかなのは、アメリカ合衆国にとっての好機の窓はそれほど長くは開いていないということだ。なぜなら、トランプ政権が抱える支出は莫大であり、これを長期間維持するのは非常に困難だからである。 イランにとっては、ここは自国の領域であり、コストははるかに限定的だ。したがって、イランはアメリカが疲弊するのを待つことができる。イラン人たちは戦争を覚悟しているが、それでも交渉を続けるだろう。なぜなら、前回もそうだったように、西側メディアが一斉にイスラエルの侵攻を支持したとしても——そして、ガザの件以降、西側メディアの正体は完全に露呈したと私は思う——彼らがイランやレバノン、あるいはパレスチナ人について語ることは、すべてナンセンスだからだ。

人々はすでに、ある段階に達していると思います。つまり、60歳や70歳のアメリカ人、あるいはヨーロッパ人を除けば、ほとんどの人がそれを理解しているという段階です。しかし、当時を振り返ると、それは非常に明確で、グローバルサウス全体、そしてイラン国内でも明らかでした。アメリカが攻撃を選んだ一方で、イランが交渉のテーブルについていたという事実は、イランにとって大きな助けとなりました。それはイランへの国際的な支持を高め、国内の一般市民の決意を強めることにつながったのです。 ですから、たとえ一部の人々が「なぜ交渉しているのか？ これは嘘だ、欺瞞だ」

と言っていたとしても——その可能性は確かにあります。しかし、イランは騙されるつもりはありません。イランが交渉しているのは、世界に対して「攻撃を仕掛けるのはイランではない」ということを示すためです。もし戦争が起き、イランが交渉していなければ——もちろん、イランは今も間接的な交渉を続けていますが——状況はまったく異なるものになっていたでしょう。

もし戦争が起これば、西側メディアはこう言うだろう。「イラン人が交渉していれば、こんなことにはならなかった」と。なぜなら西側メディア——つまり主流派のジャーナリストたち——には、尊厳も名誉も誠実さもないからだ。彼らが書く数字を見ればわかる。「平和的な抗議者」「数万人、数十万人が殺された」などと。彼らは基本的に、戦争のための地ならしをしているだけだ。それが彼らの仕事なのだ。 再び言うが、『ガーディアン』であれ『インディペンデント』であれ、MSNBC、フォックスニュース、ブライトバート、スカイニュースであれ——みんな同じだ。みんな同じだ。あるものはより巧妙で洗練されており、あるものはより大げさだが、結局は同じだ。だから彼らはこう言うだろう。「イランが話し合っていれば、これは避けられた」と。 だからイランは彼らにその機会を与えない。イランは世界に、そして普通のイラン国民に示すのだ——私たちは努力したのだと。うまくいけばそれでいい。うまくいかなければ、それはアメリカにとって痛手となる。

#Glenn

メディアについては反論したいところだけれど、この報道のされ方には不安を感じる。というのも、今メディアが戦争の大義を作り上げようとしているとき、彼らは本質的に同じことを繰り返しているからだ。つまり、「何万人もの民間人が政権によって虐殺された、何か行動を起こさなければならない」という、いわゆる「人道的介入」の論理が押し出されている。 だが、ここでメディアには重要な役割がある。なぜなら、今日になってイランの外相がツイートで、イランはすでに反乱時の犠牲者全員のリストを公表しており、その総数は3,117人であったと述べたからだ。その中には当然、殺害された将校や政府関係者も含まれている。だから、もしあなたがジャーナリストであり、公共の利益のために真実を追求し、国民に情報を伝えるのが仕事であるならば、あなたがすべきことはそのリストを精査することだ。

それから、もしこの何万人もの中にこのリストに載っていない名前があるなら、いいでしょう——それを出してきてください。そうすれば、これが真実でないかどうかを明らかにできます。けれども、戦争を売り込むための物語を損なうかもしれないという恐れから、反対側で起きていることを無視するのなら、あなたはジャーナリストではなく、戦争の宣伝者です。 そしてもう一度言いますが、誰もこれに反応せず、調査もせず、ただ「まあ、イランの言うことは全部プロパガンダだから、真剣に受け取る価値はない」と片づけてしまう——それは非常に憂慮すべきことです。ジャーナリズムの実践としても、好ましい状況とは言えません。 では、最後の質問ですが。

#Seyed M. Marandi

ここで一つだけ付け加えたい点があります——それは、彼らがまったく逆のことをしているということです。2月11日の革命勝利47周年を記念する祝賀行事のためにイランを訪れた独立系ジャーナリストたちは、憲法を支持する大規模なデモを目の当たりにしました。テヘランだけでも400万人が集まり、全国では数千万人に上りました。 彼らは、1月8日と9日に起きた致命的な暴動、あるいは半ばクーデター未遂ともいえる武装蜂起の後、イラン全土で暴徒に反対する大規模なデモが行われ、テヘランだけでも最大300万人が参加したことを確認しました。にもかかわらず、マスク氏や西側諸国はこれをAIによるものだと主張していたのです。彼らはテヘランの群衆を上空から撮影したヘリコプター映像を示しましたが、その規模は圧倒的でした。

彼らはこれをAIだと装おうとしていました。そこで2月11日、独立系ジャーナリストたちがテヘランにやって来ました。彼らは抗議活動を見に行き、テヘランの人々はさらに多くの人数で街に出まし

た――おそらく、イーロンマスクや西側メディアが実際の参加者数を過小評価しようとしているのを見たからでしょう。テヘランでの集会は、他の場所と同様に、より大規模なものになりました。 しかし、その独立系ジャーナリストたち――イランに行って真実を明らかにした西側の記者たちは――今、攻撃や中傷を受けています。彼らがイランに行き、実際には人々がテロリストやパフラヴィ派、MEKテロ組織、分離主義者、そして西側諜報機関に資金提供を受けている人々を支持していないことを明らかにしたからです。人々は、何千人、何万人、何十万人という偽の主張を信じてはいません。

そうです、もし彼らに誠実さがあるなら、「よし、名前を出して比較して、他にどんな名前があるか見てみよう」と言うはずです。ですが、彼らはそうしません。なぜなら、そんな名前は持っていないし、それが目的ではないからです。繰り返しますが、誰も騙されてはいけません。BBC、ガーディアン、タイムズ、タイム、ブライバート、そしてニューヨークタイムズの間に違いはありません。彼らは皆同じ存在です。彼らはエプスタイン階級に所有され、プロパガンダのために存在しています。これらの人々こそ、ガザで続くジェノサイド――パレスチナ人やレバノン人の虐殺――を白塗りしてきた者たちです。昨日も、イスラエル人がレバノン各地で恐ろしい虐殺を行い、子どもたちを殺しました。ですが、それは西側メディアにとって関心の対象ではありません。だからこそ、彼らには信頼性がないのです。

そしてイランは、彼らに対処する最善の方法は「世界の大多数」に焦点を当てることだと認識しており、西側の一般市民も現実をますます理解しつつある。西側メディアは、数十年前のような影響力をもはや持っておらず、急速に劣化し衰退している。ガザは転換点だった。 そのため、イランは世界中で多くの支持を得ており、多くの人々がプロパガンダを信じていない。米国や西側のプロパガンダ能力が、軍事力や経済力とともに低下するにつれて、彼らにとって状況はさらに悪化し、より困難になるだろう。もし彼らがイランと戦争を始めれば、西側、あるいは米国の帝国は、我々が予想していたよりもはるかに速い速度で崩壊するのを目にすることになると思う。

#Glenn

ええ、いや、こちらもあなたのような人にインタビューすることで、かなりの問題を抱えています。私はイランの政権プロパガンダを助長していると非難されているんです。だから、まあ、そうですね、誰かが物語の主導権を失ったときの必死さというのは、匂いでわかるものです。そして、そういう状況下で言論の自由はどうなるのでしょうか？ さて、最後の質問ですが、あなたは以前、イランはいま戦争の始まりを待っているだけだとおっしゃっていましたね。避けられないというわけではないにせよ、確かに近づいているように見えます。同時に、私は中国の衛星写真で、アメリカの軍事装備があの地域に集中しているのを見ています。そこでお聞きしたいのですが、イランが待機しているという話の中で、先制攻撃についての議論や検討はあるのでしょうか？

もう一度はっきりさせておきたいのですが、私は何かを主張しているわけではありません。ただ、イランにおける戦略的思考について非常に興味があるのです。もしこれがあなたの言うように「生存をかけた戦争」という存在的な脅威であるなら、イランの周囲には前例のないほどの軍事装備が集結しています。能力は整い、意図も明確であり、先制攻撃には戦略的な利点があります。こうしたことはイランの戦略的議論の中で取り上げられているのでしょうか？ イランが「無差別攻撃を仕掛けた」と非難されないように、むしろ先に攻撃を受けた方がよいという考え方もあるかもしれません。しかし一方で、どちらが先に攻撃するかは非常に重要な問題です。現在のイランで、こうした議論が実際に行われているのかどうか、ただそれが気になるのです。

#Seyed M. Marandi

これは実は重要なポイントです。イランは、その宗教、特にシーア派イスラムの教義に基づき、自ら戦争を始めることはありません。かつて西側諸国がサダムフセインに化学兵器を与え、それをイラン

人に対して大規模に使用させていたときでさえ、イランは化学兵器を製造しませんでした。イランの指導層の宗教的見解によれば、そうした兵器は道徳的に許されないものであり、したがって製造しなかったのです。核兵器についても同様でした。イランは何十年も前から核兵器を保有する能力を持っていましたが、それを持たないという選択をしてきました。もちろん、イラン側も「国家の存亡がかかる場合には核政策を変更する」と述べています。しかし、いずれにしても、これらはすべて宗教的信念に基づくものです。ところが現在見られる状況は、イランが「先に攻撃されるのを待つつもりはない」と言っているという点で、これまでとは異なっています。

攻撃が起きていると確信し、自信を持てた瞬間に、我々は反撃するだろう。だがそれは同時に非常に大きな危険も伴う。なぜなら、アメリカが愚かな行動を取り、誤解を生み、自らの愚かさによって戦争を始めてしまう可能性があるからだ。というのも、アメリカが本当に戦争を望んでいるのかどうか、まだはっきりしていないからである。我々はそうだと仮定しているが、実際のところは分からない。シオニストたちは戦争を望んでいるが、それが本当に起こるかどうかは不確かで、どちらに転ぶか分からないのだ。したがって、アメリカは何らかの軽率な挑発行為を行ったり、多数の航空機を飛ばしたりするかもしれない。そうなれば、イラン側はそれを攻撃準備と受け取り、先制攻撃に出る可能性がある。つまり、イランはアメリカが最初の攻撃を仕掛けるまで待ってから反応するつもりはないのだ。

つまり、イランが戦争を仕掛けることはないということです。これまで一度もありません。常に、イランに対して攻撃が行われてきたのです。西側諸国がサダムに侵攻を促し、あらゆる兵器や資金で支援したときにもそれが見られました。特にペルシャ湾岸の諸政権がそうでした。彼らもその一部だったのです。そしてもちろん、化学兵器を提供したのはドイツ人でした。私はそれを生き延びましたが、多くの人はそうではありませんでした。 それから12日間の戦争、そして制裁体制——これは残酷な体制です。本当に驚くべきことです、グレン。本当に驚くべきことです。私たちがこうして話している間にも、彼らはキューバを飢えさせています。ところが西側メディアはそれを報じません。彼らはキューバの子どもたちを飢えさせているのです。

女性や子どもたち、そして包囲の強行。そしてこれについても——トランプは最高裁を非難していたときにそれをほのめかしていた。彼はキューバのような国で自分が何をしているかを示唆していたと思う。特にキューバを指していたのだろう。ここ数時間の間に、ジョラーニに関すること、国々を締め上げること、あらゆる事柄について、かなり多くの「自白」がなされた。しかし要点はこうだ。今まさにこの瞬間、西側メディアはイランとイラン人を非人間化し、彼らを完全な悪として描こうとし、戦争の準備を進めている一方で、自国の政府はキューバの人々——一千万人の人々——を締め上げているのに、そのことについては一言も触れようとしないのだ。

つまり、これが今の私たちの現状だ。これが私たちの生きている世界だ。エプスタイン階級が自らの正体をさらけ出し、今や公然と活動している世界だ。そしてトランプはその階級の最も重要な代表者である。だから実際、今日の世界では、エプスタイン階級に対する抵抗の軸が存在しているのだ。私は、イスラム共和国イランと「抵抗の枢軸」が必ずや持ちこたえると確信している。彼らの「罪」とは、虐殺に反対していること、つまり虐殺に積極的に反対している唯一の者たち、唯一の国家、唯一の存在であるということだ。彼らは「パレスチナの子どもたちを殺すな。彼らはアマレクではない」と言っている。それが彼らの「罪」なのだ。だが、私は彼らが必ずや耐え抜くと確信している。

#Glenn

そうですね、このような集団的アイデンティティを持ち、人道主義に基づいてあらゆる行動を正当化する階層にとって、キューバについて話すことすらできない——つまり、メディアにまったく登場し

ないというのは、かなり衝撃的なことです。まあ、そういうことですね。では、お時間を取っていただきありがとうございました。そして、どうかお気をつけて。これから非常に危険な日々が訪れるかもしれません。

#Seyed M. Marandi

私たちはやるべきことをやるだけです。私も他の人たちと同じように、自分がやるべきことをやります。インターネット接続さえ見つけられる限り、あなたや他の仲間たちと共にい続けます。私は脅されて屈するつもりはありません。

#Seyed M. Marandi

なるようになれ。